



24日

鬩雞神社、お笠、馬が集まり御旅所勤めが行われ、笠鉾一行が出發します。住矢を先頭に、お囃子を奏でたお笠が町中を練り歩き、各場所でお勤めをします。夕方には笠鉾に提灯が吊られ、旧会津橋曳き揃えで川面に映る笠鉾の姿は幻想的です。



田辺祭とは

450年以上続くといわれる田辺祭は、笠鉾が町中を練り歩く鬩雞神社の例大祭で、毎年7月24日・25日に行われます。旧城下の各町から出る笠鉾は山車の一種で、お笠と呼ばれ親しまれています。笠鉾の上屋に作り物(人形など)を飾り、下屋に奏者が乗りお囃子を奏でます。他に鬩雞神社から神輿、馬町から馬が出されます。



25日

暁の祭典は陽が昇る前からはじまり、巫女による浦安の舞が奉納されます。昼には旧会津橋で住矢を迎えるための交渉、七度半の使いが行われます。夜には住矢やお笠が宮入りし神前勤め、馬場では流鏝馬式があり祭は最高潮となります。



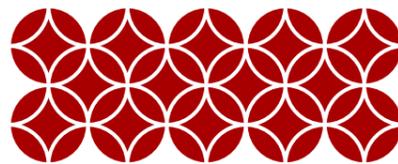
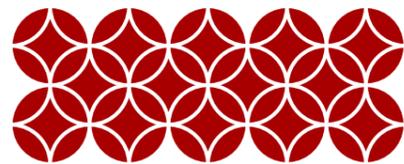
24日 笠鉾曳行経路



朝 神輿渡御(鬩雞神社)
笠鉾本町たて町曳き揃え
お笠渡御合流 出發
御旅所勤め(江川漁港)

昼 神輿還幸
笠鉾出發
文化会館横曳き揃え
鳥居前参道曳き揃え

夜 鳥居前勤め(鬩雞神社)
住矢の走り
笠鉾出發
旧会津橋曳き揃え



早朝 暁の祭典(鬩雞神社)
昼 七度半の使い(旧会津橋)
潮垢離勤め
笠鉾出發
福路町曳き揃え
鳥居前参道に曳き揃え

夜 御宮入(鬩雞神社)
神前勤め
住矢の走り
流鏝馬式
曳きわかれ

25日 笠鉾曳行経路



笠鉾曳行経路は、平成29年度田辺笠鉾協賛会発行「田辺祭巡幸」を基に作成しています。



七月二十四日・二十五日

田辺祭

散策とMAP

田辺祭を活かした地域活性化事業実行委員会 発行
このパンフレットは平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金を受け作成しています。



2018.03

散策MAP

田辺の町は昔から城下町として、また熊野参詣の基点として多くの人で賑わっていました。現在もその頃の様子が見られる場所が数多く残されています。このMAPを使って、田辺祭と古くからの歴史が残る田辺の町を散策してみてください。

1 闘雞神社
熊野本宮大社より熊野三所権現を勧請し、三山参詣に替えたという伝承があります。6棟が並ぶ社殿は、熊野本宮大社に倣ったと考えられ現在に継承されています。社名の由来は、源平合戦の際に赤白の鶏を闘わせ、白鶏が勝利し源氏に味方したという故事によります。世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録されています。

2 御旅所
御興渡御の神事は、かつて潮垢離浜にお笠が集まり行われていましたが、近年江川漁港で執り行われています。

3 浦安神社
元禄7年(1694)以前の創建と記録が残されています。漁業の神であるエビス神が祀られています。

4 八立稲神社
明治40年(1907)4社を合祀、それぞれの神社から一字を取り八立稲神社と名付けられました。

5 戎神社
江戸時代前期にはすでに勧進されており、宝永3年(1706)片町網屋から現在地へ移されました。

6 弁天神社
弁天通り開通に伴い、地域の方が祀っていた祠を弁天神社としました。弁財天と八幡宮をお祀りしています。

7 八坂神社
安永5年(1776)の記録に古くから所在とあり、境内には少年期に座ったという弁慶の腰掛石があります。

8 稲荷神社
江戸時代後期にはすでに勧進され、伊作田稲荷神社(稲成町)をここから移したという伝承もあります。

9 蟻通神社
社名は、ホラ貝に糸を通すよう命じられた者が蟻に糸を結びホラ貝に蜜を流し通させた故事に由来しています。

闘雞神社と田辺祭

10 出立王子跡
王子社の一つで「田之隣に行き王子社へ奉参」「出立王子にまいる」など多くの貴族の日記に登場しています。

11 潮垢離浜旧跡
かつては砂浜が広がり熊野参詣の重要な潮垢離場でした。ここで田辺祭の御興渡御の神事が行われていました。

12 道標
「右くまの道」「左わか山道」と書かれ、元は本町の通り東側つきあたり近くにあってと伝わります。

13 道標
「右きみあてら」「左くまのみち」と書かれ、元は栄町の通りの西側つきあたり近くにあってと伝わります。

14 道標
「左くまの道 すく八大へち」「右きみい寺」と書かれ、中辺路街道と大辺路街道の分岐点にあたる道標です。

3 南方熊楠顕彰館南方熊楠邸
世界的博物学者の熊楠の展示や資料が保管され、また熊楠が居住した邸宅(国登録)が見学できます。

3 文化交流センター「たなべる」
図書館、歴史民俗資料館、市民広場を併せ持つ複合文化施設です。

各施設

16 浄恩寺
天正19年(1591)創建といわれ、和佐大八郎の大弓や備長炭の生みの親備中屋長左衛門の墓があります。

17 浄行寺
文禄2年(1593)建立、慶長13年(1608)に現在地へ、境内には江戸時代の本堂などがあります。

18 龍泉寺
慶長年間に開山したと伝わる浄土宗のお寺です。境内には清姫が水を飲んだとされる清姫の井戸があります。

19 海蔵寺
源平合戦で戦勝を祈願し船に安置したと伝わる木造菩薩形坐像(県指定)は別名弁慶観音と呼ばれています。

20 本正寺
江戸時代前期の創建とされ、日蓮の木造を砂中から掘り出したのを機に現在地に転移したと伝えられています。

21 地蔵寺
江戸時代前期の創建とされ、本尊の地蔵菩薩立像(市指定)など多数の文化財があります。

寺院



1～9 闘雞神社と田辺祭 10～15 熊野参詣道 16～25 寺院 26～30 歴史 31～32 各施設

26 田辺城水門
元和5年(1619)頼主安藤直次が田辺城を築きました。水門と東に続く石垣が当時の面影を残しています。

27 宗祇庵日跡碑
連歌師宗祇顕彰のため、田辺の俳人玉置香風が宗祇庵を建てました。当時の記念碑が残っています。

28 扇ヶ浜台場跡
安政元年(1854)黒船来襲に備えて築かれました。砲台跡等はありませんが土台の雲田気が残っています。

29 弁慶松跡
江戸時代に弁慶町と呼ばれた由縁の一つである弁慶松は、場所は変わりましたが現在も植え継がれています。

30 会津児童公園
紀勢本線を行っていた旧国鉄蒸気機関車C577が展示され、明治22年大水害の記念碑が建てられています。

歴史

各町のお笠

江川(住矢)
江戸時代には江川浦と呼ばれ、当時から漁業が盛んでした。住矢は住まいの間を矢のように走り厄を祓う笠で、祭では常に先頭を進み行路を清めています。笠の頂部に七～九段の枝振りの良い雄松をつけご神体とします。

栄町
江戸時代には上長町、下長町に分かれていましたが、明治4年に合併して栄町となりました。人形は中国の伝説上の動物「猩生」と日本神話に登場する「神功皇后と建内宿禰」で、祭り期間中に交代で飾ります。

南新町
江戸時代、新町(北新町)の南側に広がった町。人形は鎌倉幕府を倒した「新田義貞」日本神話に登場する「須佐之男命」源義経の幼名「牛若丸」歌舞伎で有名な「汐くみ」の4体を曳初めから本祭まで交代で飾ります。

紺屋町
江戸時代に紺屋業者が多く居住していたことが町名の由来です。かつては笠鉦を出していましたが、明治22年の水害で流失し、大正期から衣笠を出しています。笠の最上部に五段の雄松をつけご神体としています。

江川(恵美須)
江川町では、住矢のほか笠鉦を2基出しています。人形は江戸時代から変わらず、七福神のひとりで漁業の神「恵美須」と同じ七福神のひとりで五穀豊穡の神「大黒」を飾っています。

本町
江戸期の城下町で最初にできた町と言われ、城下の中心として栄えてきました。田辺祭の巡行順は住矢に続いて笠鉦の先頭で進みます。人形は世阿弥作の謡曲「高砂」の尉と姥で長寿と夫婦愛の故事にちなんでいます。

北新町
江戸時代、長町(栄町)から熊野街道沿いを東に広がった新町といわれ、さらに南側に町が広がったため元の新町を北新町と名づけています。当時から木の枝に団子や餅をつけて豊作を祈願する「餅花」が飾られています。

福路町
江戸時代には袋町でしたが、明治3年に福路町と改称しました。幕末頃からかまぼこ製造が盛んになり、現在も「かまぼこ通り」と呼ばれています。人形は日本神話の英雄として知られている「日本武尊」を飾ります。

片町
通りの南側が田辺城外堀、北側に住居が並び、通りの片側だけが町ということが町名の由来になっています。人形は三国志演義の英雄「関羽」と日本神話に登場する「神功皇后」で、祭り期間中に交代で飾ります。